

やっと出会えた理想のユニフォーム ukaカラーに病院の理念と働く皆の想いを込めて

岡山中央病院 産婦人科バースセンター



①こだわりの詰まった、上質感のあるエントランス。②赤ちゃんの身のお世話は保育士が優しくレクチャー。③スタッフの明るい表情が印象的なナースステーション。④上質感のある院内に馴染む uka カラーのユニフォーム。⑤困りごとはコンシェルジュが丁寧に対応。



社会医療法人 鴻仁会 岡山中央病院
岡山県岡山市北区伊島北町6-3
www.kohjin.ne.jp

地域医療を支えるためのしっかりとした理念

岡山県岡山市で1951年に産婦人科を開設し、現在19科を運営する岡山中央病院。クリニックから、急性期、回復期まで横断型の医療を提供するグループ全体の理念として「あなたと共に」を掲げ、患者さんやそのご家族と同じ目線で寄り添いながら、地域医療へ



の貢献を目指しています。

2020年には産婦人科をリニューアルし、「より優しい医療をより快適な環境で」をコンセプトとした「産婦人科バースセンター（以下「バースセンター」）」を立ち上げ。医師、助産師、看護師、保育士のほか、コンシェルジュや料理人を配置し、妊産婦の方に寄り添った医療や食事の提供、ご家族の要望にも応え、より快適な入院生活をサポートしています。

大切な想いを表現してくれる「uka」カラー

今回、バースセンターのユニフォームリニューアルでご採用いただいたのは、トータルビューティーカンパニー「uka(ウカ)」カラー監修によるユニフォーム。このユニフォームに出会うまで、数々のカタログやサンプルを取り寄せたり、オーダーメイドに挑戦したり。年齢や要望も異なるスタッフの意見は分かれ、2年以上に及び難航したといいます。

選定当時を振り返り、保育士の福田さんは「決め手は色のかわいさでした。彩度・明度を抑え、落ち着いた印象の“くすみカラー”

主張しすぎず、バースセンターの主役であるお母さんや赤ちゃんに寄り添える存在でありたいというスタッフの想いにもマッチしていました」。

コンシェルジュの伊東さんは「助産師には、日勤に“ラベンダーピンク”夜勤に“パールピンク”のスクラブを採用したことで、助産師の働きやすさにもつながっていると思います」といいます。というのは、入院中のお母さんやそのご家族がユニフォームの色を見て、退院間近ではない助産師を選んで声をかけてくれるようになったそうです。

また、保育士に採用したグレー系の「アースブルー」は、黒・白・グレーのみを認識できる新生児期の赤ちゃんに寄り添いたいという思いが込められています。

仕事しやすい、スタッフの気持ちにも変化

着心地について、助産師の小横さんは「軽くて動きやすいです。スタイリッシュなシルエットだけでなく、適度なハリで“きちんと感”がある素材もいいですね。屈んでも胸元が見えない絶妙な

カットや、ポケットの位置・深さも使いやすいと好評です。保育士の近松さんは「以前は別々のユニフォームだった助産師と保育士が、同じ形のを着ることで、バースセンター全体にまとまりが生まれました」とのこと。好きなユニフォームを着ることで、皆の仕事のモチベーションも一層アップしたと感じているそうです。

副院長の渡邊さんは「バースセンターの立ち上げに伴う、さまざまなリニューアルの多くは、ひとりの提案を元に決まったのに対して、ukaのユニフォームだけは働くスタッフ皆で決めたものでした。自ら誇りを持って選び、着た時にも満足しながら仕事をしていることを、本当に嬉しく思っています」とのこと。これからも、病院の姿勢や心を表現するものとして、ユニフォームを活用頂ければ幸いです。

